

「手無し娘」のおとぎ話

「手無し娘」のお話、知っていますか。日本はじめ世界中のあちこちに見られる「おとぎ話」です。

あるところに、手を切り落とされた信心深い娘がいます。娘は結婚して子どもを産みますが、魔女にだまされ家を追われ、子どもを背負って野辺をさまよいます。飢え乾いた娘は川で水を飲もうと前かがみになったひょうしに、背なかの子どもを川に落としてしまいます。アツと思わ

ず無い手をさし出した瞬間、手が生えていた、というお話です。

手を切られた痛みも、家を追われた悲しみも、飢えも、乾きも忘れて、純粋にまっすぐ現実と向き合うとき、現実を変える力がわいてくる。何となく先行きが見えない時代だけれど、無い手が生えるような奇跡に出会えることを楽しみに、来る波を乗り越えていこう……と心にきめたお正月でした。

(津田町 まわるき)

——本当にそうですね。そのために同じ思いの大人が連携し、変えていくことが大事ですね。本日はありがとうございました。

(注1) ユニセフが2012年に発表した

Report Card 10 - 先進国の子どもの貧困

(注2) 社会的弱者を隔離排除するのではなく、共に助け合って生きていこうという考え方。

(注3) 小平市でも現在、中学生を対象とした勉強会(通称「分かったかい(会)」?)が小川公民館で行われています。

片山かおる

生活保護費の大幅削減に反対する三多摩アクションや「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワークなどに関わる。

<お問合せ>

Tel&Fax : 042-316-1511
office@katayamakaoru.net

「なくそう!子どもの貧困」 全国ネットワーク

http://end-childpoverty.jp

ゆずりは

TEL&FAX 042-315-6738
acyuzuriha@gmail.com

小平在住。在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ 32

ラートで つながる

西井 英理子さん
(日本ラート協会事務局、
上水新町在住)



「日本ラート協会には世界チャンピオンがいます。」と西井さん。夫も子どもも選手。

◆体を動かすのが大好き

西井さんは幼い時から体を動かすのが大好きでした。小学1年生から機械体操クラブに属し、技が

できた時がうれしくて、学校が終わるとすぐに練習に駆けつける毎日でした。ところが、高校2年生の時に怪我をして「悪夢のような時期を過ごした」と言います。それでも先生の指示で後輩の指導をするうちに体育教師を目指そうと思うようになりました。

◆日本ラート協会事務局に

大学時代、ドイツからラートというスポーツを持ち帰った先生の模範演技を見た西井さんは、すぐにラートに夢中になり、指導を受けるようになりました。機械体操とラートは使う筋肉が同じで西井さんは「ラート習得に適していた」とのこと。日本にはラートの大会がなかったため、いきなり欧州選手権に出場しました。卒業後は、

体験の豊富さをかわれて日本ラート協会の事務局に就職し、日本選手権の立ち上げと運営に携わり、年間100回もの体験教室で全国をまわる生活をしてきました。経費節約のために鉄製のラートにゴムを巻く作業を倉庫でしていたところ、通りかかった大家さんがアトリエを貸してくれ、「神様に見えました」と西井さん。

◆ラートとともに

ラートに出会った西井さんは、「自分の生きていく道を探せてよかった」と話しました。先生がドイツから持ち帰った2台のラートが20年経った今では200台になりました。西井さんが事務局を務める日本ラート協会の普及活動の賜物です。収入が不安定な仕事なので、

スポンサーの開拓と会員増強が必ずや必要です。全国で取り入れてくれるところが増えてきたので、子どもたちが望む時に練習ができるように環境を整えていきたい、と言う西井さんは、最後に「健康に気をつけて後継者を育て、引き継いでいきたい」と語りました。



ラートはドイツ語で「輪」。補助具を使って輪の中に入り、動かします。

※戦前の日本海軍にはラートがあったが、戦争中に鉄の供出で全部溶かされてしまった。地方で「軍隊時代に体験した」というお年寄りに出会ったという話も出た。ラートは欧州では人気のあるスポーツのひとつ。身体・精神障がい者に対するスポーツとしても行われている。ラートは自閉症のお子さんが好んで運動する傾向がある。
日本ラート協会のホームページ <http://www.rhoenrad.jp>

ひろく 示板

「女性限定！おしごと応援講座 —自己表現力を磨く—」報告

講師は産業カウンセラー・キャリアカウンセラーの小泉久子さん（第1・2回）、カラーコーディネーター・ファッションスタイリストの都外川八重さん（第3回）。自分の思い整理して、相手に伝えるコツを学ぶ3回の講座を中央公民館にて開催しました。

1・2回は「内面からのアプローチ」。ライフステージの変化に影響を受けやすい女性の就労状況、多様な働き方、模擬面接や履歴書の書き方など、基本的な知識を学ぶだけでなく、自分の短所を長所に変えるリフレーミングで、自分自身を客観的に見つめ直しました。

3回目は「外面からのアプローチ」。色が持つ性質や印象をわかりやすく学習。さらに自分のパーソナルカラーを見つけて、自分を効果的に表現する方法、他者との調和について学びました。



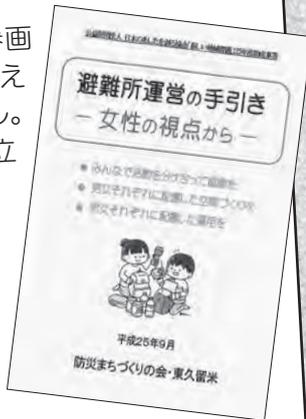
参加者からは「心が楽になった」「将来なりたい自分と、今、手に届く仕事を冷静に考えることができた」「ビジネスにおいて相手が求めるイメージも大切にしたい」「日常生活にも役立てることができそう」との声が寄せられました。



女性の視点を活かした防災マニュアル 『避難所運営の手引き —女性の視点から—』

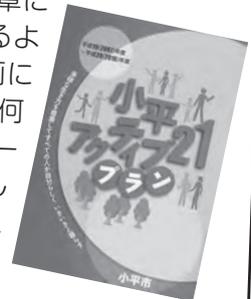
避難所運営に男女共同参画の重要性、女性の視点を加えた画期的な防災マニュアル。地域での学習会や訓練に役立ててみてはいかがでしょうか？

<お問合せ>
防災まちづくりの会・東久留米
TEL&FAX: 042-421-6295
(代表・金澤)
E-MAIL: j-knzw@nifty.com
※冊子は参画センターでも閲覧、貸出しています。



「小平アクティブプラン21」から 男女共同参画を進めるのは、 私たち市民です。

「小平アクティブプラン21」には「市民の役割」が書かれています。第2章には「市民の役割としては、一人ひとりが男女共同参画推進の主体であるという意識を持つことが大切です。」とあり、第3章には「子どもたちへの良い手本になるように、家庭における男女共同参画に努めましょう。」とか、「自分たちに何ができるかを所属する団体やグループで話し合い、できることを実行しましょう。」など、具体的に書かれています。



いちど
来てみませんか？

小平市男女共同参画センター

ひらく

(愛称)

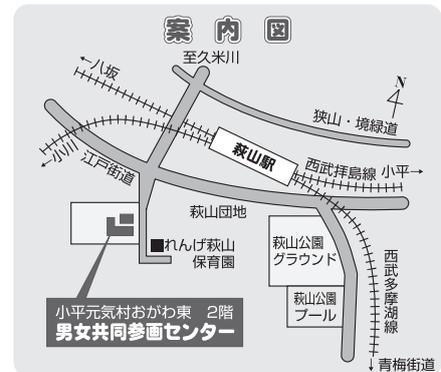
小平市男女共同参画センター

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1
小平元気村おがわ東 2階

042-348-2112 (青少年センター兼用)

西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分
※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 利用登録団体・個人
- 問合せ先 次世代育成部青少年男女平等課
042-346-9618



小平市男女共同参画推進実行委員は、市報「こだいら」で募集します。

男女共同参画の紙芝居

石川県白山市の男女共同参画室では、市民の意識啓発のための紙芝居をつくり市民に見せるだけでなく、希望すれば全国どこへでも貸し出ししています。入門編の「さんかくちゃん」は男女共同参画の基本の「き」を知らせる作品ですが、家庭編、職場編、地域編、幼児編、子ども編、夫婦編、熟年編、育休編、DV防止編と、様々な場や年齢に合わせた、わかりやすい紙芝居が10作品もあります。楽しみながら勉強できるので評判です。



★市民団体「こだいら参画の会」が紙芝居の出前をしています。連絡先 090-6033-6948

ひとひと 女と男の参画講座

東日本大震災・被災地の今に学ぶ！防災・避難・復興

平成25年12月7日、21日、平成26年1月11日、18日、中央公民館で開催。

第1回「被災者の今」

講師：伊藤まりさん（福島県浪江町懇談会）

津浪被害を避けるために着のみ着のまま近くの中学校に避難してから2年9か月、避難所を転々と移動して今、横浜に住む伊藤さん、震災で家も仕事も失い、家族バラバラになった話に参加者は言葉を失い、それでも明日を見つめて今、暮らしておられる伊藤さんに励まされた感じでした。



第3回「原発の今」

講師：野村修也さん（中央大学法科大学院教授・弁護士）

福島原子力発電所の事故処理がどうなっているのか、よくわからなかった参加者に野村さんは、未だ終わっていないことを明らかにされ、その背景に、自らの責任をあいまいにする日本人があることを指摘されました。これには参加者の多くが賛同すると同時に、反省させられました。



第2回「被災地の今」

講師：井出寿一さん（福島県川内村役場復興対策課課長）

大震災が起きたとき村民の生命を守るために井出さんたち＝行政が行う判断や決断の大切さを参加者は再認識すると同時に、村の外に避難した人の帰村を促すために井出さんたちが今、さまざまな復興対策を積極的に実施している話に、被災地に灯る明るい希望を感じました。



第4回「小平で今」

講師：佐藤良子さん（立川市大山自治会会長）

被災地の今を知って何をすべきかを考えたとき頭に思い浮かぶのは、「人と人のつながりのあるまちづくり」です。1999年に会長に就任してから、両隣りの見守りから始まって地域の人への「目配り、気配り、心配り」を大山団地で実践している佐藤さんの話は、参加者の心を揺さぶりました。



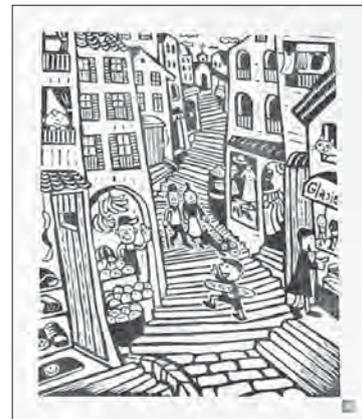
「坂のある町」版画 村田エミコ

撮影場所 ギャラリーY（鷹の台駅前）
撮影 長塚秀人



子どもの頃、坂の上に立つと、実に遠くまで、夏なら青く光る、冬なら灰色に動く海のところまで見渡すことができました。それは視点が変わる気持ちのよさでした。

坂の下に立つか上に立つか中ほどで振り返るか。いつもと違う見え方は新鮮です。頭が回転しだして何かを考え決めることができ、その先にきっといいことがあります。坂の下のおじさんの店からバナナを買って、坂を登って行って、教会の鐘楼から遠くを見て…好きなように時間を使う。時間は本来、自分のものです。だから、どのように使うかを決めるのは自分です。





『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。

『日本のジェンダーを考える』

川口 章著

〈有斐閣〉

1,900円＋税



日常生活の中で、男女平等

の国なのに、どうして女だから？ どうして男だから？ と思う男女の役割の違いがたくさんあります。著者は、小学校、中学校、高校、大学↓就職した職場↓結婚して出産、子育て。人生の様々なステージで経験する男女差に触れた後、日本における性別役割分業、女性差別を生む日本的雇用制度を考え、最後に、日本が変わるために何をすればいいかを書いていきます。「ジェンダー」や「男女共同参画」を読んで学ぶにはいい本ですが、よく知っている人と一緒に読むとさらに理解しやすいと思います。

『わたしは女の子だから』

ティム・ブチャー著 ほか

角田光代訳 〈英治出版〉

1,600円＋税



私小説風だったり、ルポルタージュ風だったり、7人の作家が描くのは、それぞれが訪れた町や村で出会った少女たちの物語。まだまだ世界には、女の子（女）だからと差別されたり、虐げられている事実がたくさんある。実はこの「わたしは女の子だから (Because I am a Girl)」は、イギリスに本部を置くNGO団体のキャンペーンのタイトルでもある（つまりこの本はその一環として出版された）。自分の力ではどうにもならない偏見や環境の中で必死にもがく

少女たちに、私たちは何ができるのだろうか？ 一般的な調査・報告書とは異なる反響が、ここから生まれることを願って止まない。

『「日本国憲法」なのだ』

赤塚不二夫・永井憲一 著

〈章士文化〉

900円＋税



巻頭のマンガでは憲法の大事なポイントの平和主義、国民主権、基本的人権をたった16ページで表現し、巻末の資料には全ての漢字にふりがなをつけた条文が納められた画期的な入門書。単なる「笑い」と思っていた赤塚氏のギャグマンガに登場する「これでいいのだ」や「ニヤロメー」のセリフに込められた深い意味を知るとともに、この本の初版が1983年に出版されたことに驚かされる。再び「日本国憲法」に関心が高まる今だからこそ、大人はもちろん、子どもにも読んでもらいたい一冊。

『ミツバチの会議』

トーマス・シーリー 著

片岡夏美訳 〈築地書館〉

2,800円＋税



著者は「ミツバチ」の研究者で、蜜蜂が分蜂群を作って新しい巣へ移る時の行動を観察し、そこに人間顔負けの法則を見出した。新しい巣探しは、一万匹以上の蜜蜂の中から選抜された数百匹の搜索蜂が行い決定する。大変な量の実験から得た教訓が、①意思決定集団は利害が一致し、お互いに

敬意を抱く個人で構築する、②リーダーが集団の考えに及ぼす影響をできるだけ小さくする、③多様な解答を探る、④集団の知識を議論を通じてまとめる、⑤定数反応を使って一貫性、正確性、スピードを確保する、と彼は唱える。実際に所属大学の教授会で応用し、その効果を実感している。専門的で少し難しい内容もあるが、蜜蜂の民主的かつ合理的な話し合いの法則を発見したユニークな本である。

『私たちのサバイバル作戦』

上野千鶴子 著

〈文春新書〉

800円＋税



むかし、フェミニストたちは夢を見た。「女性や弱い者たちの意見が反映される社会」を。そのためには何をすればいいのか。そう、男社会の中でもモノを言えるだけの経済力を身につければ、男たちも少しは耳を傾けるだろう。そして、できたのが「雇用機会均等法」。女も男のようにバリバリ仕事をし、残業もいとわず、出張もいとわず、転勤だって文句は言えない。なぜなら男たちはそれをしていないのだから。結局、人間の価値は経済力ではないと言っていたフェミニストたちが男社会の罠にハマったせいで、女性たちは前よりもっと苦境に追い込まれている。

このような反省のもとに上野千鶴子氏が女性たちに送るサバイバル術。でも結局、価値観を解決策にするのは、かなりずるい気がする。

行って みました ポレポレ東中野



「事実は小説より奇なり。」よくできたドキュメント映画を見てるとまさにその思いを実感する。

3年前の大阪ダブル選挙に立候補した「マック赤坂」を中心に、なんで選挙に出るんだか定かではない泡沫候補たちを追いかけ



地下階段の踊り場
ドキュメント作品のチラシが並び

た作品「立候補」。監督：藤岡 利充。キャスト：羽柴誠三秀吉、外山恒一、マック赤坂、橋下徹、安倍晋三。いかにも現実感いっぱいのキャストなのだが、本編に入るとさらに嘘も隠しもない候補者たちの実像が映し出される。

大阪の雑踏でランニング姿で歌い踊るマック赤坂、公約を口にすると嘘をつくことになるから『そういうのは嫌なの』とただただ道行く人に「よろしく」と声をかける高橋候補。男手ひとつで娘を育てながら、「世のために」と立候補を続ける中村候補の前の得票数は550票だった。そして立候補はしたもののほとんど家にいた岸田候補。みんな立候補さえしなければ、その辺にいるただのおじさんたちが、彼らの言動は掛け値なしで面白い。負けるとわかっていて、なんで彼らは選挙に出るのか、300万の供託金と引き換えに、何を手に入れようとしたのか。まったく???だらけの内容だが、まぎれもなくこれは実際にあったこと、ノンフィクションならではの作品なのだ。

で、この作品がかかっていたのが、ドキュメント専門の映画館、「ポレポレ東中野」。2003年にオープンした、中野区唯一のミニシアターで、客席一人あたりのスクリーン面積が日本一広い。ここでしか見られない貴重なドキュメンタリー作品が毎日上映

されている。

場所はJR東中野駅西口、新宿に向かって坂を下りていくと左側にガラス張りの掲示版があるビルの地下。館内は昔あったような田舎の映画館、といった感じだが、受付にいるのはおばちゃんじゃなくて若い女性。場所柄お客さんは若い人が多いが、中高年の姿もちらほら。年代は違うけどなぜかみんな忙しそうではないところが似ている。予定なんか決めでフラッと入ってみたい映画館だ。時間が余ったら1階にある「Space & Cafe ポレポレ坐」でコーヒーを一杯もいい。



大きな掲示版は映画館の目印

ポレポレ東中野

- ◆場所：東京都中野区東中野4-4-1
- ◆HP：http://www.mmjp.or.jp
- ◆電話：03 (3371) 0088
- ◆座高調整用座布団貸出 102席
- 料金 作品によって変わるので要問合せ
- 回数券 5回 6,000円 10回 1,000円
- サービスデー 毎月1日 1,000円

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(19館)、大学(7か所)、福祉会館、総合体育館、児童館、健康センター、市役所1F・2F、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、市内各駅(7か所)、ふれあい下水道館

- 小川町 多加楽、手作ロクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院
- 栄町 ちあきこどもクリニック 小川西町 佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー
- 小川東町 ギャラリー青らんぎ、フレッドファクトリー 510、カフェ Air 上水本町 アトリエ・パンセ、cookies KAWAI
- 津田町 ハタエコンサーン、ハーティハーティ
- 学園西町 ビューティーサロンサンローズ、百の豆木、梁里館、美容室ヘアグラッシュ、鈴木小児科、本間歯科
ヘアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん、笹間住宅資材
- 学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、たましん一橋学園支店
東京都民銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室Je
学園東町接骨院
- 美園町 多摩済生病院、カフェラグラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、
小平駅前クリニック、シャンブル、子育てサポートきらら
- 御幸町 ケアタウン小平 鈴木町 和菓子の玉川屋 仲町 小平消防署
- 天神町 ヴェルデ 大沼町 がすミュージアム
- 花小金井 上原薬局、風のシンフォニー、辰砂、公立昭和病院、ねこじたゴリラ堂

編集後記

●「ひらく」の編集に携わり2回目の発行。まだまだ編集作業に慣れない中、初めて一人で取材へ行き、多くの出会いと色々な経験・勉強をさせて戴きました。また改めて自分のワーク・ライフ・バランス見直す良い機会となり、家事育児だけでなく、自分時間というキーワードも頭に入れて生活したいと思った。(A)

●正社員の場合、時給はとう出すのだから。週5日、7時間労働として月に22日働くとする。時間によって154時間。月収が32万円だと約2千円。報酬93億円の長者さんだと約500万円！無意味な計算だった。(S)

●作家のいしじんじさんが「人類史上はじめての経済活動は、おそろしく贈与だったろう。…よその誰かに、木の実や肉、魚貝を、見返りなど求めないで与える。その連鎖のなかで、ばらばらだった他人が、人間としてつながっていく」と書いています。(たいせつな糧より)人間を信じていたい。(T)

7号 H12.10



サークルしよう
座談会・自分「らしさ」
の謎を解く!

『ひらく』のあゆみ

こんな風に「ひらく」を作っていました

男女共同参画社会になると、 何が変わるのか？

編集にあたり話し合いが多かったのは、模索するには一番の近道だったからだろう。一步踏み出して、意見が違っていても認め合い、捉われや決めつけを外していく。お金を掛けず、誰にでもできることからやってみた。それが挑戦だった。

近隣4市の女性センターを 訪問した。

センター職員が「やらないと見えてこない」「連携が必要」と力説していた平成13年。小平市は『ひらく』に15人が参画し、間借りの福祉会館一室で誌面作りに燃えていた。市民や他市への聞き取り方は万全だったが、文字の小ささでは叱られた。

8号 H13.3



結婚てなあに？
女性センター訪問記

★バックナンバーは、男女共同参画センター“ひらく”（小平元気村おがわ東2階）にあります。次世代育成部 青少年男女平等課にお問合せください。

特別イベント ‘ひらく’ 10周年記念

(小平市男女共同参画センター)



平成16年1月
開設式の様子

言い出したのは一人の実行委員。平成25年度「ひらく」の年間計画を見ていたとき、不意に今年の1月25日が、男女共同参画センターが出来てちょうど10年になることに気がついたのだ。

平成8年に市民公募で始まった「小平市男女共同参画推進実行委員会」。それから8年後、福祉会館の間借り活動から、元気村に出来た「男女共同参画センター」に拠点を移してから今年で10年になる。そう考えると、委員たちの間に、是非記念イベントを開こうという気持ちが出てきた。早速実行委員会が立ち上がり、活発な意見が交わされた。



入口のアーチ

たくさんの写真で構成された「ひらく10年の歩み」、トークイベント「一步踏み出したいあなたへやりたいことをカタチにするためのヒント」、開催の準備、そして、できるだけ多くの人たちにびっくりしてもらおうためのすてきなコーディネートプラン。楽しい企画が次々に生まれ、委員たちは連日センターに集まって作業に励んだ。

当日は大勢の人で賑わい、トークイベント会場には「一步踏み出した」先輩たちの話を熱心に聞く、子連れのお母さんたちの姿があった。

「長年活動してきた福祉会館談



「もうひとつの図書館」
ひらくの書棚は充実しています

話室から移って、はじめは不安だったけれど、年々認知度も増してきて、改めて10年間、進み続けていたんだなあ実感した。ここで出会えたたくさんの人たちとのつながりを財産にして、これからも積極的に男女共同参画に関わっていきたい]言い出しっぺの実行委員はうれしそうにほほえんだ。



トークイベント
子育て中の母親の
参加が多かった

ひらく

第34号

平成26年3月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

安食世津子 浦綾 北川 紘二
酒井 愛 笹尾かをる 貞弘雄二郎
佐野 里美 坂岸 真子 谷原 裕子



実行委員が中心になって作った10年間のあゆみの展示

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。

再生紙を使用しています。